

## 説明会(3日目)要旨

日時	令和7年2月2日(日)14:00～16:20頃
場所	中公民館 3階大ホール
事務局	渡辺町長、筒井副町長、田中企画部長、山田企画課長、安藤企画調整係長 他係員2名
参加者	130名
報道	3社(東海テレビ、岐阜新聞、フリー)
質疑 応答 要旨	<p>Q. この説明会は勉強会として行っているのか、御嵩町として行っているのか。</p> <p>A. 御嵩町として行っている。</p> <p>Q. 当該区間も八百津線と同じような歴史をたどっている。広見線は御嵩～犬山の区間であり、当該区間が廃線になれば次は新可児駅～犬山駅間の問題になるだろうと考える。八百津町はなぜお金を出さないのか。可児市とどのように協議をしているのか。</p> <p>A. 勉強会において、八百津町、可児市とは相談・情報共有・協議を進めており、結果的に鉄道存続かバス路線への転換かのいずれかが結論になるということになっている。</p> <p>Q. どちらの選択にするのかは、御嵩町の判断に一任されているということか。</p> <p>A. 一任ではなく、3市町と名鉄との4者での合意が必要であることから、この合意の前に、御嵩町としての方向性を示す判断が求められている。</p> <p>Q. バス路線転換において全数輸送規模を確保しつつ、利用者50%と想定しているのは矛盾ではないか。</p> <p>A. 輸送力は鉄道の規模を維持しつつ、収入の試算を行うために50%と仮定しているものである。</p> <p>Q. 町議会との懇談会があり、観光の重要性が議論に上がっていた。町が観光などで盛り上がることを重視しているのであれば、鉄道の利便性の高さが必要と考えるがどうか。</p> <p>A. 町議会において特別委員会が設置されたため、皆様からのご意見とともに議会としての考えもいただいたうえで判断すべきと考えている。鉄道とバスのどちらの手段であっても観光、産業による人流やお金を生み出すために、工夫や投資が必要と考えている。</p> <p>Q. 可児市と御嵩町の境に新たな工業団地造成が進んでいる。この工業団地への鉄道の利用者想定や、バス路線へ転換をすることで国道21号バイパスの混雑が加速すると思われるが、この対策などはどうするのか。</p> <p>A. 工業団地にどのような企業が入られるかなどが決まっていないため、十分に議論の対象にはなっていないが、工業団地敷地には駐車場なども整備されていくものと聞いている。鉄道においても、バス路線においても、道路環境への影響は懸念される事項として考えている。</p>

- Q. 少子高齢化や自家用車の増加により将来的に利用者数の確保は困難と思われ、廃線しかないのではと思える。現在の鉄道利用者の移動をどう支えていくのかが重要である。
- A. 現時点では存廃を判断したわけではないため、皆様のご意見を聞きながら総合的に判断していく。
- Q. みなし上下分離方式において県からの補助はないのか。
- A. 現時点で地域鉄道に対する支援はあるが、大手民鉄が運行する区間への支援はない。
- Q. 鉄道存続におけるシミュレーションに示された7000万円を超える額を町が支出し続けることは現実的に可能なのか。
- A. 自治体の経営が破綻することはあってはならないため、厳しい財政運営の中でどう凌いでいくのかをしっかりと考えていく必要がある。
- Q. 鉄道存続に向けた支出を続けるために、様々な事業の削減も行われていくと予想されるため、財政調整基金が枯渇するという説明だけでは不安を煽るのみで不適切だと考えるがどうか。
- A. 支出に向けて事業削減などを検討していくという考え方自体は認識のとおりであり、あくまで財政調整基金から取り崩していった場合のシミュレーションであることにご留意いただきたい。
- Q. 御嵩町は環境モデル都市の責務として環境面への配慮も必要である。バス路線への転換であれば自家用車転換も進むと考えるため、慎重に判断をしてほしい。
- A. 環境面にも配慮しながら考えたい。
- Q. みなし上下分離方式ではなく、今まで通りの運営支援方式ではどれぐらいの額となるのか。
- A. 今までどおりの運営支援方式では継続できないとの名鉄の意思を確認しており、みなし上下分離方式でなければ、試算上の国の交付金や、事業者負担分などの充当ができず、収入を差し引いた経費は基本的に全て自治体が負担することになる。
- Q. 当該線区はほとんどが無人駅で、当該線区専属でない駅員の人件費なども経費に含まれていないかという懸念があるが、名鉄には確認しているか。
- A. 名鉄から示された計算要領を踏まえて適切に経費を算出されていることを確認している。

Q. 存続に向けて、朝晩は通常どおり鉄道を運行し、少ない時間帯は運行本数を間引く、車両数を減らす、または新駅を創設するなど、存廃のように明確に白黒つけるのではない交渉はできないのか。

A. かねてよりコスト削減に向けて名鉄と交渉してきたが、明確に削減に繋がる取組ではなかった。また、新たな投資については慎重に判断する必要があると考える。

Q. バス事業者の理解は得られるのか、協議はされているのか。

A. バス事業者と相談して試算をしている。運転士不足もあり、非常に厳しい状況ではあるが、実現可能であるとの回答をいただいている。一方で、運転士確保などに時間がかかる可能性も示唆されている。

Q. 鉄道があることに対する経済効果の算出は行っているか。

A. 鉄道の公共交通としての効果については国のガイドラインに基づき算出している。経済効果については、調査・分析に新たにコストが掛かるため詳細には行っていない。

Q. バス路線転換において30分に1本という運行は必須と考えているか。

A. 一旦当該区間の運行を置き換えて試算しているが、仮にバス路線に転換するとなれば運行形態については検討が必要であると認識している。必須の条件ではない。

Q. 町財政のシミュレーションにおいて、年間の経費には減価償却費も含まれていると予想するが、計算は妥当か。

A. 名鉄から示された15年間の設備投資額と、2022年度の運行経費を落とし込んでシミュレーションしたものであり、減価償却費などは考慮せず、イメージとして提示している数字であることにご留意いただきたい。

Q. 令和7年6月に廃線するとのニュースが流れており心配している。広報無線や広報紙で誤った情報の訂正と正しい情報の提供をお願いしたい。

A. 適切な媒体にて情報提供していく。

意見  
要旨

・当該区間の廃線により、新可児駅より先の区間収入減や可児市での御嵩町民の経済活動の減が想定されるため、名鉄や可児市の言い分を聞くだけでなく、それらの影響を加味した交渉が必要だと思う。

・御嵩町は名鉄沿線のごみ拾いなどかねてから活動を続けてきた。御嵩町の鉄道を残したいという想いを名鉄や可児市との交渉時に伝えてほしい。

・説明会参加者数からみても注目度の高い問題であると認識している。福井新幹線の事例であれば、開通により転出減、転入増の状況もあったと聞く。鉄道がなくなれば、子育てする地域に選ばれず転出が増えてしまう。御嵩町を存続していくために、鉄道は必要だと思う。

- ・当該区間でいえば、距離の長さや利用者属性を考えると可児市のほうが割合は高いため、自治体の費用分担については可児市と交渉してほしい。
- ・鉄道存続に向けて、御嵩町の厳しい財政状況を抜本的に見直す時期だと思う。
- ・東濃高校生徒の乗車マナーの悪さにより、東濃実業高校の生徒の一部が自転車通学にシフトしているのではないかと思う。利用の多くの占める東濃高校の生徒に乗車マナーなどの声掛けをしてほしい。
- ・御嵩町にも外国人観光客が多く入ってきている。馬籠宿は中津川からバス1本で行けるよう公共交通を配備している。増えつつあるインバウンドの観光需要を喪失しないようにしてほしい。
- ・可児市としては、当該区間の恩恵を受けている住民の割合は高くないため、行政としての費用負担は慎重な姿勢なのだろうと推測する。可児市としての説明会はしないのかと市に問い合わせたが、市としての説明会はしないと回答であった。
- ・町内の高校2校に対する移動支援などは町だけの責任でやるものではない。また、御嵩町の高校生たちも県内他地域の高校への通学の重要な移動手段でもある。県や可茂地区のような広域な視点で広見線の存在を捉えて存続を働きかけてほしい。
- ・時代の流れ上、バス路線転換が現実的と考える。バス路線転換においては、観光客ではなく町民にとってのサービスレベルが高いバス路線の設定、2次交通の充実、新たな遊覧バス路線の創設などを検討してほしい。
- ・利用者減少を鑑みると、廃線するほうが妥当と思われる。浮いた費用は防災に活用すべきと考える。
- ・名鉄全線の動向を見ても、ワンマン化、無人駅など、企業としての経費削減は限界までやっていると推測され、これ以上名鉄に求めすぎるのは限界だと思う。どちらの選択であっても、観光などの一時的な利用よりも、高校生などの日常利用している人々の利便性を優先して確保してほしい。
- ・当該区間を利用して、御嵩町の魅力を感じてくださる観光客の方もいた。
- ・ローカル路線については全国的な問題であることから、国・県への働きかけが必要と思う。

- ・示されている経費が、第3セクター鉄道で掛かっている経費より高い印象を受けるため、経費削減に向けて名鉄と交渉してほしい。
- ・観光利用客から運賃を多くいただくなどの利用者負担のあり方も検討してほしい。
- ・願興寺の秘仏などの観光資源を十分に活用してほしい。
- ・車いすの方などはバスより電車のほうが利便性の高さを実感している人もいると思われる。
- ・地域に愛された路線であり、廃線は悲しい。願興寺など御嵩の魅力を全国に発信し、ファンづくりと観光誘客を進めてほしい。
- ・バス路線で観光誘客できないわけではないが、自家用車で観光に来られる方も増えると予想され、周辺の駐車場整備も課題となる。
- ・敷設してきた先人たちの想いを継いで、様々な関係者から様々な支援を受けられるようにするなど、前向きに存続に向けて考えていただきたい。